

第3回 山形県立博物館友の会役員会記録

2009年2月14日(土)、山形県立博物館 講堂、出席者 11名

■会長挨拶(奥山副会長)

第3回友の会講演会が行われ、今年度の友の会行事を滞りなく終了したことに感謝する。今年度の友の会の諸事業について振り返り、意見を伺いたい。

■議題

1. 2008年度事業報告

友の会主催講演会が3回行われ、延べ86名の参加者があった。出版物は展示図録2種類を発行し、頒布中である。会報はこれまでに4号まで発行した。そのほか、博物館玄関前に会員の協力で花の寄せ植えを設置し、博物館の美化と友の会活動のPRにつとめている。

2. 2008年度会計中間報告

一般会計については、会員数が75名(1月末現在)に達し、会費収入で事業を維持できている。出版事業会計については、年度当初予定になかった図録の発行があったが、出版を望む声に応えるものであったし、20年度全体の図書頒布収入は、1月末の段階で当初予算額に比して増収となる見込みである。

3. 『最上川と人びとのくらしー川絵図を読み解くー』頒布価格

博物館や関係各所に無償提供した部数をふまえ、頒布価格を決定すべきであった。

4. 『やまがたの博物館』(旧訂版)の頒布

博物館連絡協議会から、県内博物館ガイドブックが新しく発行される予定があり、友の会に在庫している『やまがたの博物館』(旧訂版・博物館連絡協議会発行)の頒布を終了すべきかどうか、博物館連絡協議会に問い合わせ、検討する。

5. 2009年度事業計画

出版事業として、特別展(山寺展)の展示図録発行、『学芸員の宝もの』発行については、引き続き検討する。

09年度新規事業として、博物館・友の会共同企画展「私の宝物」(仮称)11月21日(土)~1月31日(日)開催する。展示の内容等については検討を続ける。

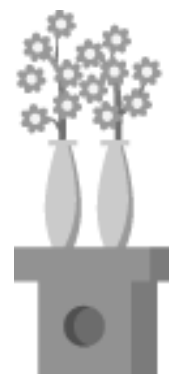
友の会総会を5月10日(日)に予定する。

6. 他館友の会からの視察受け入れ

埴輪博物館友の会(千葉県芝山町)より、6月に来訪したい旨の打診があったが、旅程の都合上、今回の訪問は見合わせると後日連絡があった。

7. 事務局体制

21年度事務局員として、新たに3名を加える。



友の会ができそうなこと

山形県立博物館友の会幹事 市村幸夫

私は地図大好き人間である。半世紀以上前の地図に幼い頃の町並みを思い描いたり、城下絵図からは義光や兼続の息づかいが聞こえてくる。昨年七月、企画展「最上川と人びとの暮らしー川絵図を読み解くー」での小野寺淳氏講演「古地図にみる文化景観」は、国絵図の世界に夢中にさせる内容であった。でも私の手元に古い地図はない。

私は博物館大好き人間である。博物館には多くの収蔵資料がある。でもこれらの歴史資料や民俗資料は十分に活用されているのであろうか。

天保七年、幕府は国絵図の作成を命じている。元禄の国絵図提出から久方ぶりであり、ここ山形の秋元藩も要領が分からず右往左往したようである。「川絵図を読み解く」からの飛躍した発想であるが、友の会員個人では無理であっても、グループの組織力を引き出せば、天保国絵図作成のあらましが補足される可能性がありそうである。この場合の組織とは、友の会会則でいうところの団体である。私は村山民俗学会という民間の研究団体の事務局を担当しているが、会員に呼びかけることにより様々な対応が可能ではないかと考えている。博物館で所蔵している古文書を解説し公開する。このような手段が博物館の調査・展示への協力にはならないだろうか。博物館で開催している古文書解説講座と併用することも選択肢のひとつかも知れない。

展示活動の面でひとつ。故あって博物館への寄贈に関与した資料が二つある。「寛政二年山形城本丸北不明門石垣修復帳」と「山形お歯黒看板」である。それぞれが数点ずつである。これらが博物館に展示される機会はまずないと思われる。つまり、僅か数点では企画の立てようがない。そこで、「私たちのお宝展」「明治の世相展」なら出番があるのではなからうか。友の会みんなで英知を出し合えば、なかなか陽の目をみない収蔵品も喜ぶであろう。これらは博物館ボランティアの協力なしに運営はできない。

友の会がやれることを考えたい。

資料紹介

「週刊少国民」と「こども朝日」

学芸員 青木章二



山形県立博物館では、企画展「少年雑誌にみる戦中・戦後 - 『週刊少国民』から『こども朝日』へ - 」(2008年5月24日～7月6日)を開催しました。本展示会は、山形市在住の個人より、「週刊少国民」および「こども朝日」が一括して寄贈されたことを機に、この貴重な資料を広く展示紹介することを目的とし、併せて、この少年雑誌が映し続けた戦争から平和へのあゆみと子どもたちをめぐる激動を振り返ることをテーマとしました。

「週刊少国民」は1942年5月に朝日新聞社から創刊された学童向けの週刊雑誌です。「週刊少国民」は戦後も刊行が続きましたが、1946年10月1日付で「こども朝日」に改題され、1949年4月には「少年朝日」に改題されました。

この度、受贈したのは「週刊少国民」第77号(1943年11月7日付)から、

「こども朝日」第271号(1948年8月15日付)までの計156冊です。1943年11月から1948年8月までに刊行された約5年間分が、ほぼ揃っている点で貴重なコレクションといえます。

戦中・戦後期に出版された本誌の変遷をたどると、①戦争末期の1944年4月から、B4判であった判型がB5判に縮小されて発行されたこと、②終戦の前後期には、2号ないし3号の合併号が続いたこと、③販売定価をみると、1942年時点の10銭が、戦後の1948年には10円にまで値上げされたこと、など出版困難期にあった数々の事情が見てとれます。「週刊少国民」は、国策である戦争遂行のために、学童に向けての教化・宣伝を目的としたつくられた雑誌でした。本誌の表紙を飾った写真や絵に注目すると、当時の「少国民」の姿がよくわかります。「少年兵」や勤労奉仕に励む「はたらく少国民」、また学童疎開の様子などは、頻繁にとりあげられました。ほかにも、大東亜共栄圏の「少国民」、精神や身体の鍛錬に励む「少国民」、科学技術の習得に励む「少国民」なども登場します。子どもたちを戦争に駆り立てるためのプロパガンダ誌であった本誌は、国内外、また時局の要請に沿ったさまざまな「少国民」像を描き出し、あるいはつくりあげました。本誌の表紙を飾った戦時下の子どもたちの姿は、こうした「少国民」の群像でした。



戦争が終ると本誌の誌面は大きく変わり、戦時・軍事色は一掃されました。こうした誌面の抜本的な変容をうけて、「週刊少国民」は、1946年10月に「こども朝日」に改題することになりました。新誌名に「こども」ということばが復活したことは、戦後における「こども」の復権を象徴的に意味するものでした。内容をみても、漫画や短編小説を掲載するなど娯楽性を持たせながらも、読者たちに社会や科学などの幅広い知識や教養を身につけさせようという誌面づくりがみえます。

戦争プロパガンダ誌として創刊された「週刊少国民」は、ここにおいて名実ともに、少年少女向けの総合雑誌への変貌を遂げたのでした。品物名が書かれています。崑崙堂は書物関係を中心に、日用品から茶や大工道具など幅広い品物を扱っていたようです。最後にこんな一言がそえてあります。

展示会の見どころ

共同企画展 「縄文ヴィーナス誕生の地」－西ノ前遺跡－

展示期間：2009年5月2日～6月7日

西ノ前遺跡の土偶は、造形美の素晴らしさから「縄文ヴィーナス」の愛称で多くの方々を魅了し、国内はもとより海外の主だった博物館や美術館に出展されました。遺跡については、土偶が発見された状態など、遺跡の全体像が公開されることが余り有りませんでし



た。これを機会に縄文時代中期の大規模な集落である「西ノ前遺跡」を紹介し、県内各地の主な遺跡から出土した土偶などもご覧いただけます。

本展は、(財)山形県埋蔵文化財センターと連携を図りながら2度目の共同開催となります。

平成21年度のおもな展示会

共同企画展 「縄文ヴィーナス誕生の地ー西ノ前遺跡ー」

平成21年5月2日～6月7日

(山形県埋蔵文化財センターとの共催)

特別展 「山寺ー歴史といのりー」 平成21年8月8日

～10月19日

共同企画展 「私の宝物」 平成21年11月21日～1月31日

(友の会との共催)

西ノ前遺跡出土深鉢

企画展 「海の貝と陸の貝ー加藤繁富貝類コレクションよりー」

平成22年2月20日～5月9日



事務局より

友の会会報第5号の発行をもって今年度の事業が全て終了致しました。原稿を寄せてくださった方々にお礼申しあげます。

昨年春、懸案であった友の会の発足をみる事が出来ました。準備会の時から、事務的な仕事を進めてくださった永幡智子さんのご苦勞がなければこれほど順調には進まなかったかも知れません。永幡さんは、この年度末をもって博物館を退職し、事務局の仕事も退くことになりました。事務局としては大変な痛手ではありますが、また何時の日か共に友の会活動が出来る日を楽しみにしています。

山形県立博物館は、山形の自然分野、地学・動物・植物、山形の人文分野、考古・歴史・民俗、山形の教育分野の、総合的な山形の文化の情報発信施設です。県民の博物館に対する期待に応えるためには、職員の不断の取り組みは当然の事ながら、それには限界があります。友の会のようなサポート組織が不可欠なのだと思います。

本友の会は、発信する友の会活動を目指していきたいと考えています。09年度、博物館との共催で「わたしの宝物」展を実施するのもその一つです。ただ展示するのではなく、出展者が展示資料の解説をし、必要なら講演し、展示品をとりまとめた冊子を発行できないかとの思いを持っています。来年度の総会で提案いたします。

友の会はまだ歩み始めたばかりです。独り立ちするために、一人ひとりがそれぞれの立場で関わっていただければ、明るい生来が期待できます。

まず、会員を100名にすることが目標です。

来年度もご支援下さいますようお願い致します。

(野口)